

【取組内容①】「Modification (変革)を目指した組織的な授業づくりと学級づくりの一体的展開」

◆実践事例◆

さらには、【共感的な人間関係の育成】自分の得意な部分、分かったことを発表し合う機会の設定（発表）／他者の発表や考え方、解き方について、お互いに関心を抱き合い評価しあう場面の設定（相互評価）／「教えあい」や「学びあい」の場面や話し合い活動の場の設定（教えあい）／個々の児童生徒の発表や考え方、解き方などについて、ICTを活用して共有し、尊重され、認め合える場面を設定（ICT活用）／【自己決定の場の提供】自分独自の意見や仮説をまとめる機会の設定（自己意見）／対話や討議の場を設定し、自分の考えを主張したり他者の意見と比較させて自分の考えを深める機会の設定（討議の場）などを、教科授業のみならず、学級経営の重要な視点に置いて実践を重ねてきました。

◆変容と成果◆

生徒の学習態度や意欲の向上と同時に、指導者側の授業に対する見方・考え方が劇的に変化してきました。ICT活用による探究の方法を身に付けるだけでなく、生徒が課題を立て解決する授業づくりに関しての実践が進みました。共同編集やチャット、校外への発信などについて引き続いて研究していきます。

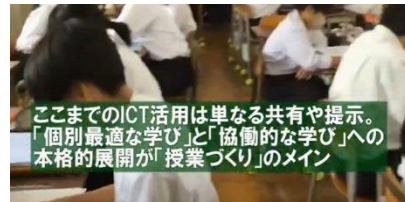


↑ 授業研究会だけでなく、学習支援加配が全授業者の実践を通信にして発信することにより、ICT活用だけでなく授業改善全体が急速に進みました。

↓ 春日井市の実践を参考に、単なる提示や意見収集に留まらず、互いのつまづきや思いも含めて共有しあい、習熟度に合わせた個別最適な学習へ移行させていく「協動的な学び」を重点研究(本校作成動画資料)



日頃の学習習慣の確立により、教えあひめあひの授業形態に円滑に移行



ここまでのICT活用は単なる共有や提示。「個別最適な学び」と「協動的な学び」への本格的展開が「授業づくり」のメイン



さらに、教える・教わるの関係性から協動的な練りあいのワーキンググループへ



タブレットは「自分に合った学びの方法」の、あくまで選択肢のひとつ

